



今年アーカイブ七年 明けましておめでとうございます 2011年元旦

「アーカイブ元年」(2005年)以来の本誌アーカイブ俯瞰記事一覧表

年	DJIレポート No.+頁	記事	備考
2005	61 巻頭	2005年をアーカイブ元年に 目標 文書基本法の実現 基礎自治体の アーカイブ整備	2004年、日経新聞の連載「アーカイブ零(ゼロ)年」 をうけ、国際資料研究所として2005年を「アーカイブ 元年」と宣言 4月、E文書法施行
2006	65 巻頭	アーカイブ元年からアーカイブ2年へ ①文書基本法の実現②市区町村のアーカイブ 整備③電子記録の長期保存必要性主張④日本の アーカイブ活動の国際的発信	2005年からNIRA「公文書管理の法制度検討委員 会」(委員長高橋滋一橋大学大学院教授)、内閣府 「懇談会」に中間書庫と電子媒体記録の2研究会が 置かれる 6月「宙に浮いた年金記録」が約5000万件ある ことが判明
	66 巻頭	アーカイブ2年 文書基本法の実現に向け て DJI「文書基本法」の見直し	
	69 巻末随想	アーカイブ2年回顧と展望 電子記録の長期保存がアーカイブ3年の 課題	
2007	70 主張	アーカイブ3年 ブルーシールド国内委員 会設立を！→NDL/JLA「ブルーシールド 一危機にひんする文化遺産の保護のため に」出版	国民保護法成立、有事の文化財保護の根拠法。ブ ルーシールドの根拠であるハーグ条約を批准。 社会保険庁、国民年金記録5千万件が宙に浮く、な ど国会で問題となる
	71 視点	今こそ記録管理院を創設せよ (社会保険 庁年金記録問題をうけ)	
2008	73 視点	アーカイブ4年を迎えて 相次ぐズサン文 書管理、問われる「国家の品格」	3月、公文書管理のあり方等に関する有識者会議、 発足。7月、中間報告、11月、最終報告。 http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/koubun/index.html
	74 巻末随想	文書管理法と文書局	
	75+76 視点	国家事業として取り組むべき公文書管理	
2009	77 視点	公文書管理法の早期成立を望む(アーカイ ブ5年)	6月20日、公文書管理法成立 11月21日、外務省が保管する日米外交密約文書の 存在が明るみに出る。
	79+80 視点	DJIの視点 成立した公文書管理法	
	81 視点	市場となるアーカイブ(アーカイブ6年)	
2010	82+83 散歩 道	博物館・図書館におけるアーカイブズの存 在とMLA連携	7月、公文書管理委員会(座長御厨貴東京大学教 授)発足。公文書管理法ガイドライン制定。
2011	84 巻頭 巻末随想	アーカイブ7年を迎えて 大丈夫?大学アーカイブ	4月 公文書管理法施行予定

おもな内容

DJIレポート No.84 20110101

アーカイブ七年を迎えて DJI 記事年表……………1
 視点・アーカイブ6年日本のアーカイブとアーキビスト／変
 わるICA 円卓会議 CITRA……………2
 散歩道 ふくしま歴史資料保存ネットワーク……………3

災害情報 栃木県庁河合庁舎火災……………4
 散歩道 文化アーカイブズ活性化シンポジウム……………5
 文献紹介／あしあと……………6
 活動／巻末随想……………7

DJIの視点

◆近況・アーカイブ6年、日本のアーカイブとアーキビスト

新聞記事の老人性うつ病のチェックをしたところ、自分が老人性ではないがうつ病の症状があると発見した。それで、ハッと目が覚めて、少し元気を取り戻し始めた。そのきっかけは、DJIレポートをとにかくHPにアップしたところだったかも。その勢いに乗って今年度最初のDJIレポートNo. 82+83の紙バージョンも発注、全史料協大会で無料配布する。ここまで来ると次号をどうしようか、と考え始めてしまう。やっぱりアナログ人間と自覚した。

【国際資料研究所】

出講先が増え、年間通じて毎週2、3か所に出かけることになった。拙著『アーカイブを学ぶ』（岩田書院、2007）と、能力検定試験を目指す『ファイリングデザイナー・テキスト』（社団法人日本経営協会、1994）を教科書に使う。文書と記録とその保存管理が主眼だ。公文書管理法の成立は出講先増加とかなり関係深そうだ。本誌『DJIレポート』の発行。ホームページにアップできるときは嬉しい。紙バージョンも。

【日本のアーキビスト】

国立公文書館では、高山正也氏が館長に就任して今は2年目。国立国会図書館長の長尾真氏ともども、元教授のキャリアと知名度を生かして、図書館界、情報産業界などでの講演にしばしば登場する。公文書館はもともと小さいコミュニティで、加えて多くは地方公務員の世界故、国立公文書館⇒国がどのような意向を示すかということには敏感だ。国のほうを見ながら動く。

DJIの視点

◆変わるICA円卓会議 「改革にむけ、あなたのご意見を！」

2010年11月27日 23:12付のICAメーリングリストで配信されたメッセージは、ICA円卓会議の改革にむけた呼びかけだった。オリンピックの年に開催されるICA大会は誰でも参加できるが、それ以外の年に開催されるICA円卓会議は、各国の国立公文書館長並びに専門家団体代表者のための会合。毎年同じような顔ぶれが集まり、情報交換と人脈形成の努力が積み重ねられてきたもの。

メーリングリストのメッセージは、このICA円卓会議のあり方の見直しの担当者で円卓会議事務次長に就任したマーガレット・クロケットの発信である。

このメッセージによると、2010年9月、オスロで開催されたICA円卓会議(CITRA)の際に、この見直しの実施が決まり、見直しの実務もすでにスタートしている模様。年明けの2011年2月の役員会に中間報告を提出し、秋にスペイン・トレドで開催予定の円卓会議年次総会では最終報告書の承認を得るという段取りになっている。

もともと、ICA円卓会議は「invitation only」すなわち関係者以外は参加できない仕組みをもった会議で

もう一つの傾向は、30代~40代の活動がようやく顕在化してきたこと。全史料協は2年前に会の活動方法を変え、「若手」メンバーの力が発揮されるようになった。

【地方財政逼迫と日本の公文書館】

また、公文書管理法の成立前後から、情報公開運動家の動きがアーカイブとアーキビストを刺激するようになった。情報公開運動家は、マスコミにしばしば登場し、社会へのアピールも派手。役所勤めが中心のアーキビストの地道な日常業務では及びもつかぬインパクトを発揮する。しかし、アーキビストはそうではない。昨今、しばしば「アーカイブは大事」と言われながら、その意義を具体的に説明しきれていない。地方自治体全般を覆う財政逼迫がこれに追い打ちをかけ、各地の公文書館は予算削減、人員削減等々苦戦を強いられている。

【お手本的存在、沖縄県公文書館】

その中で、沖縄県公文書館は頑張っている。開館当初に雇用された、欧米の専門教育を受けた専門員（⇨アーキビスト）たちが管理職に昇格し始めたことが、その背景にあるようだ。専門教育を受けた専門職員により、沖縄県の場合は記録管理とアーカイビングのつながりがきちんと制度的にも担保されている。10年以上昔、「辺境こそ、中心となる」と言った当時若手、の専門職員氏の言葉は忘れ難い。その言葉は、いまや本当になった。今、沖縄県公文書館は日本の公文書館制度のお手本といってよい。(ち)

あったが、近年とみに国立公文書館長でも、各国の専門家団体代表でもない参加者の増加が目立っていた。参加者を限定しているという建前が崩れ、今度は建前を実態に合わせる必要が出てきたものと見ることができる。

円卓会議のこれまでを知る人、ICAの今後を考える人の様々な意見を募り、新しい円卓会議像を描こうとするマーガレット・クロケット氏の調査企画の成功を信じ、ICAの新たなありかたの提示を大いに期待する。

以下、クロケットのメッセージ(翻訳小川千代子)。

*

2010年9月、オスロで開催されたCITRA会議では、ICA執行役員会、運営委員会、年次総会のいずれにおいても、CITRA国際文書館円卓会議の見直しを行う企画が採択された。この決定では、新たな会員に魅力を感じてもらうこと、費用効果の向上により世界の文書館コミュニティに対する支援を増強すること、並びに負担の多寡にかかわらずすべての関係者に無

償の支援とサービスを提供することを目指して、ICA が新しい時代に移行していることを確認した。定期的に ICA のような団体の業務を見直すことは、好ましい方法であるだけでなく、組織の構造を見直すことにより、ICA そのものの今後の存在価値を確実にするためにも欠くべからざるものである。

CITRA 年次会合は ICA の活動と組織にとって不可欠のものであり、その目標とインパクトの見直しを手始めに行うのは大切である。このため、今後数カ月をかけてコンサルテーションを行い、調査と分析の成果をまとめ、2011 年には論点整理を書きあげる。

中間報告は 2011 年 2 月、CITRA 役員会に提出

する予定。最終報告書の締切は（勧告と提案を含め）、2011 年トレドで開催される年次総会での承認を得るのを目標に、事前配布に間に合わせることになる。2012 年のプリスペイン大会後には、その後の改変も含めすべてが盛り込まれることになる。

については、これまでに CITRA に参加したことのある皆様はじめ、諸方面の皆様からのご意見、ご要望をお聞かせ頂きたい。電子版の URL：
<http://www.surveymonkey.com/s/PK2CRW3>

今回の見直しプロジェクトの担当はマーガレット・クロケット（独立アーカイブ+記録管理コンサルタント。先ごろ、CITRA 事務次長に就任した。連絡先は crockett@ica.org。）（ち）

アーキビストの散歩道

ふくしま歴史資料保存ネットワーク登録者募集

「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」は廃止

ふくしま歴史資料保存ネットワークが 2010 年 11 月 27 日、発足記念講演会を開催する。このふくしま歴史資料保存ネットワークの発足にともない、これまでの「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」は廃止となる。以下はこれについて報じた新潟史料ネットのメーリングリスト 2010 年 11 月 8 日付（矢田@事務局さん）の記事。

*

発足呼びかけ文

ふくしま歴史資料保存ネットワーク登録者の募集について

呼びかけ人

福島県史学会 国立大学法人福島大学 福島県立博物館 福島県文化振興事業団

近年、わが国におきましては、震災や水害、火災等により、歴史資料（文書・民具・考古資料など）が被災するケースが生じています。このため、歴史資料を災害から守るため、有志によるボランティアのネットワークを構築する試みが、全国各地で進められています。

つきましては、下記により、歴史資料救済に賛同し協力いただける方々を募集し、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」を設立したいと考える次第です。

ぜひ多くの皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

平成 22 年 11 月吉日

記

1 活動内容(案)

- ・歴史資料保存に関する取組状況の紹介、講習会等の案内、展示・公開情報、資料救済ボランティアの募集等に関するメール配信
- ・歴史資料保存に関する講習会等の開催
- ・歴史資料が被災した場合の救済活動

2 登録方法

登録は無料です。歴史資料の取り扱いに関する資格や経験等は全く問いませんが、メール配信が可能であることを条件とさせていただきます。

所定のメールフォームに、以下の項目を記入して送信いただければ、登録完了となります。

ネットワーク登録希望と明記のうえ、

- 1 お名前
 - 2 居住市町村名
 - 3 電話番号
 - 4 所属団体等（無所属も可）
- をご記入のうえ送信願います。

・収集した個人情報、本ネットワーク事務局が厳重に管理し、本ネットワークの活動においてのみ用いることとさせていただきます。

3 当面の予定

以下の通り、発足記念講演会を実施いたします。趣旨説明に引き続き、阪神淡路大震災発生で被災した歴史資料の救済に取り組んでいる奥村弘氏の講演会を開催いたします。

また、意見交換会の中では、福島県における今後の取り組み方について、皆様のご意見を頂戴したいと考えています。

(1) 日 時 平成 22 年 11 月 27 日(土)13 時 30 分～16 時 30 分

(2) 会 場 福島県文化センター二階会議室(福島市春日町 5-54)

(3) 内 容

・趣旨説明 13 時 30 分～13 時 50 分

・記念講演会 14 時～15 時 30 分(質疑応答含む)「災害文化と地域歴史遺産—阪神淡路大震災から考える—」奥村弘氏(神戸大学大学院人文学研究科教授・神戸大学地域連携推進室長)

・意見交換会 15 時 40 分～16 時 30 分
(事務局:福島県文化振興事業団 歴史資料課 電話 024-534-9193)

・これまで福島県文化振興事業団が運営してきた「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」は、本ネットワークに移行となります。

・URL <http://www.culture-center.fks.ed.jp/shiryounet/con00.html>

「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」の廃止について

平成 22 年 11 月 2 日

財団法人福島県文化振興事業団理事長

このたび、別記の通り、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」の発足にともない、これまで運営してまいりました「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」を廃止させていただくこととなりました。

これまで「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」にご登録いただいていた皆様には、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださるようお願いいたします。

なお、旧ネットワークには、「歴史資料の救出」という当初の目的に鑑みたとき、以下のような問題がありました。

1. 「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」は、事務局が登録者のメールアドレスしか把握できないシステムで形成された

ため、登録者間の横の関係を構築することができず、具体的な行動を起こす体制作りができなかった。

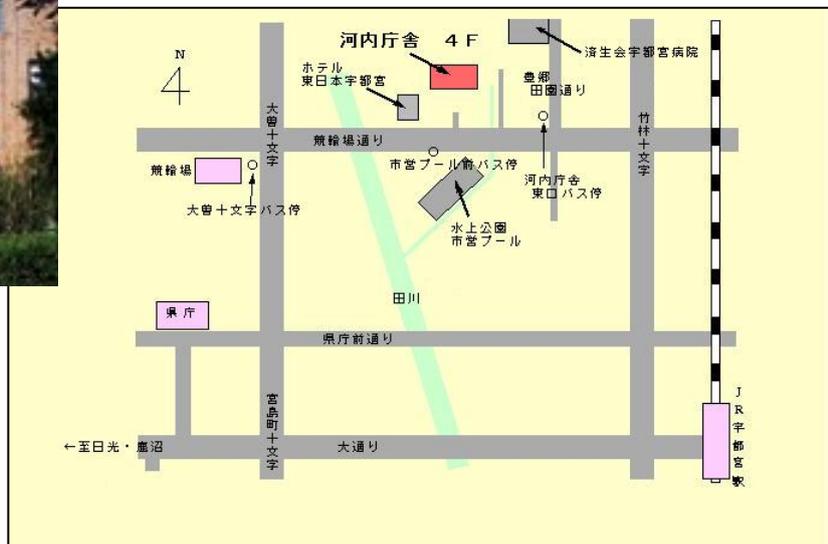
2. このため、ネットワーク登録者に対しては、文化遺産情報を記載したメールマガジンを一方的に配信するにとどまった。

3. 「文化遺産」の定義が曖昧だったため、ネットワークが担うべき役割と、行政が担うべき役割の区別が不明瞭だった。このため、ネットワークの趣旨が一般に浸透しなかった。

このたびの「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」発足は、上記の問題を解決し、より具体的な行動を起こすための第一歩です。呼びかけにご賛同いただいた福島県史学会・国立大学法人福島大学・福島県立博物館をはじめ、多くの県民の皆様や関係機関等と連携しながら、歴史資料を守る活動を推進していきたいと考えております。

アーカイブの災害情報

栃木県庁河合庁舎の火災 2010年12月12日



栃木県庁河合庁舎
〒321-0974
宇都宮市竹林町 1030-2

地方税特別徴収対策室 宇都宮県税事務所/宇都宮労政事務所/河内農業振興事務所/宇都宮土木事務所/河内教育事務所/農業環境指導センター

公文書館=アーカイブでは、非現用公文書の評価選別保存する。今年4月施行予定の公文書管理法では、公文書を「国民共有の情報資源」と位置付けている。中央省庁はもちろん、地方公共団体の役所、役場もまた、国民共有の情報資源である公文書を大量に抱えている。こういうところが火事に見舞われたらどういふことが起こるのだろうか。12月12日(日曜日)、栃木県宇都宮市の、栃木県庁河合庁舎で火事があったというテレビ報道に接した。画面では消火作業の様子が映し出されていた。放水で消火が行われたようで、画面を見る限り、大火ではなかったように見えた。

しかし、火事があればその火元一帯は水にぬれる。役所の内部が水にぬれると、紙媒体の書類の被害は避けられない。電子媒体の書類には、どんな被害が出るのだろうか。役所の文書がどうなったのかについて知りたくて、火災の翌日の12月13日(月曜日)昼過ぎ、栃木県立文書館に電話で問い合わせた。電話口で対応して下さったのはYさん。「この件は文書館ではなく、本庁文書学事課の対応となっています。文書館は教育委員会部局ですので」と丁寧な説明をいただいた。

さらに日をおいた12月27日、栃木県庁のホームページを確認した。ホームページのトップに、「河内庁舎の電話復旧状況及び業務実施状況をお知らせします」という赤いカコミ欄が目飛び込む。さっそくこのカコミをクリックすると、「河内庁舎の電話復旧状況及び業務実施状況」のページが開き、そこには、「12月12日(日曜日)に発生した、宇都宮市にあり栃木県庁河内庁舎における火災の影響で不通となっていた電話が、すべて復旧しました。」との記述がみえた。不通となっていた電話が復旧したのは宇都宮県税事務所/宇都宮労政事務所/河内農業振興事務所/宇都宮土木事務所/河内教育事務所の5か所、内、宇都宮土木事務所だけは、「電話は復旧しました。」「業務を再開いたしました。一部業務では御不便をかけることがありますので、お手数ですがお問い合わせください」となっていたので、この火事被害は他の部署より深刻であったと推測される。

栃木県庁 HP [トップ](#) > [組織と仕事](#) > [県庁ガイド](#) > [県庁舎案内](#) > 河内庁舎の電話復旧状況及び業務実施状況 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/system/gaido/annai/20101213kinkyu.html> (参照 2010-12-27)

アーキビストの散歩道

■文化アーカイブズ活性化シンポジウム 2010年11月2日

脚本アーカイブズと東京大学大学院情報学環の共催によるシンポジウム。これは今までのアーカイブ＝公文書という概念を打ち破り、文化アーカイブ＝文化資源保存という考え方へ、「アーカイブ」と「アーカイブズ」の語を定義しなおし、そこに新たな広がりを見せるシンポジウムだ！というのがチラシからの第1印象。

測するに、情報源とその管理システムのセットが「アーカイブ」。それでいい？

●市川森一さんのコメント
脚本化協会会長市川森一さんがフロアから脚本を保存しよう、デジタル化を進めよう、国家事業にしよう、という呼びかけだ。しかし、「なんでそんなことが必要なの？」「もう済んでしまったテレビ番組の脚本、もう一度使うってどういうことなの？」「誰のためになるの？



それを国家事業にするというのは、国民の税金を使おうってことなんだから、税金を使うに必要な根拠は？」などへの理論武装が課題だ。公文書アーカイブ35年の経験からそう思う。

●運動にするのか？
運動ならば広く資料の保存利用運動をやってきた人たちとの連携を考えてはどうか。

●文化情報リサイクル
これは吉見さんが提唱した考え方だ。もちろん当該分野の専門家（ここでは放送作家）にとって過去情報は必須。その分野の研究者は、当該分野のアーカイバル資料デジタル化が研究能率をグンと引き上げる。文化情報リサイクルはその点、研究者には福音となる。

●所感
元祖アーカイブ「(公)文書館」システムを離れたデジタル化による資料利用の利便性向上＝デジタルアーカイブ＝**長期保存**、これが問題。どの分野でもこれは総論賛成各論棚上げ傾向。これを乗り越えるのは時々の政治的チカラ関係による。しかも一旦始めれば長期保存は継続的な支援が必須であり、これはなかなか困難だ。

2010. 11.02 シンポジウムの後で(ち)

**文化アーカイブズ活性化シンポジウム
「文化はめぐる...脚本アーカイブズとデジタル化」**

【文化アーカイブズとは】

80 数年にわたるラジオ・メディア、50 数年にわたるテレビ・メディアが培ってきた「文化」を、アーカイブズとして集め、誰もが見ることのできる「しくみ」をつくることで、新たな文化芸術の創造に貢献します。

2010年11月2日(火)13:00～

会場:東京芸術センター 天空劇場(足立区千住)

入場無料

主催:社団法人 日本放送作家協会・東京大学大学院情報学環

後援:足立区・財団法人 放送文化基金

協力:三交社

■開会の挨拶

市川森一(日本放送作家協会会長・日本脚本アーカイブズ特別顧問)
近藤やよい(足立区長)

■基調講演

山田太一(脚本家)「私と脚本」～作家性を打ち出した先駆者としての立場より～

■第一部「テレビ文化」と「Web 文化」～文化リサイクルの観点から、その可能性と問題点を探る～

コーディネーター:

石田英敬(東京大学大学院情報学環 学環長)

パネリスト:

金 泳徳(韓国コンテンツ振興院日本事務所所長)

今野 勉(演出家 テレビマンユニオン取締役)

■第二部 文化アーカイブとデジタル化の意味及び今後

コーディネーター:

吉見俊哉(東京大学大学院情報学環教授)

パネリスト:

長尾 真(国立国会図書館長)、

竹本幹夫(早稲田大学演劇博物館館長)、

大路幹生(NHK 放送総局ライツ・アーカイブズセンター長)

■閉会の挨拶

香取俊介(日本放送作家協会常務理事・日本脚本アーカイブズ委員長)

●タイトルは文化アーカイブズ活性化。つまり、アーカイブ＝公文書だけではない、「資料保存運動」を目指すアーカイブ世界が広がっている。新しい世界という第1印象だ。

●参加人数が少ない

これを主催者が気にしていたのが印象的。脚本家のグループへの動員が間にあわなかったのか。

●「アーカイブ」という用語

あまりにも公文書アーカイブとは異なる文脈で使っている。きっと、新しい世界の始まりなんだろう。推



↑脚本の構造などの図解パネル(会場ロビー) 撮影:元ナミ氏

●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】

◆河野浩之「デジタルアーカイブ構築の技術的課題について—ポーンデジタルコンテンツとWebアーカイブ—」『アルケイアー記録・情報・歴史』No.2 pp.1-17、2008.3 南山大学史料室

◆永井英治「アーカイブズ概念の拡張のために」『アルケイアー記録・情報・歴史』No.2 pp.31-56、2010.3 南山大学史料室

◆坂本博「文化の赤十字—ブルーシールドの現状と課題」『レファレンス』58(11)、2008.11 pp.5-24、国立国会図書館調査及び立法考査局

●大林賢太郎写真保存の実務

岩田書院ブックレット アーカイブズ系A14 2010年1月 A5判・128頁 1600円+税

●劣化する戦後写真 写真の資料化と保存・活用 岩田書院ブックレット アーカイブズ系 A15、全史料協編 2010年2月刊 A5判・132頁 1600円 +税

●仕事に役立つ情報活用入門～ファイリングデザイナー検定3級テキスト～ 2010年12月刊、B5判108頁、税込1000円、社団法人日本経営協会

▼吉嶺昭「報告 県庁実務研修」

筆者は沖縄県公文書館公文書管理課の職員。公文書発生元である沖縄県庁が上流の川上、その中から歴史的に重要な公文書を選び保存し、広く一般に提供する沖縄県公文書館が川下ととらえ、その中での公文書の一連の流れを、県庁総務部総務私学課で研修した著者の報告。①沖縄県の文書事務を学ぶ②公文書館の広報普及③

各課の公文書管理状況を知る④公文書の受入、の4つが重点項目。行政情報センターの業務からは情報公開制度と公文書館の閲覧制度との違いを把握し、収発室は県あて郵便物の一括受取と各部への配布し、振分け作業からは郵便物で各課の所管業務も見えると知るなど、公文書館活動を新たな視点から考えたと記す。『沖縄県公文書館だより ARCHIVES』第39号3頁、平成22年9月30日発行

■竹内英雄「平成22年度専門図書館協議会全国研究集会からの報告」

この報告の2の最後のところに、「…レコード・マネージャー、アーキビストといったカタカナ名ではなく、例えば「記録管理士」とか「保存記録師」といった日本語名称を付与することで、記録の管理保存が日本文化の中に明確に位置付けられ、記録保存の現場に専門家の存在を定着させることになる」と話されておりました。私も、ごく一部の専門家だけがその概念を理解できるカタカナ言葉よりも、目で見てわかる日本語名称のほうが万人に受け入れられやすいであろうと共感したところでした。こういうコメントが出るのは、とてもうれしい。これを読んで、水谷長志氏が、「このテーマでシンポジウムができる」と言っておられたことを思い出した。

『びぶろす・Biblos』電子化50号 平成22年11月、国立国会図書館

<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/2010/11/03.html>

●特集 千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼ DJIレポート No.82+83 20100930 2010年10月末にアップ、8頁PDFは www.djichiyoko.com 紙バージョンは11月の全史料協大会会場で配布。

▼ DJIレポート No.84 20110101 2010年12月末にアップ、7頁。PDFは www.djichiyoko.com

■『アーカイブ随想録 チョコの視点 DJIレポートの11年』 www.djichiyoko.com 2010年11月 up。

■「報告書『大学アーカイブの理想』まとまる」

『学環学府 31 10.2010』（東京大学大学院情報学環・学際情報学府発行）のNEWS欄に記事掲載（写真）。なお、報告書『大学アーカイブの理想』【既報No.82+83,全文PDFは www.djichiyoko.com】

▼<ちよこ(千代子)っとニュース>2010年1月、ハイチの首都ポート・オブ・プランスの大地震のアーカイブ被害その後。『記録管理学会 Newsletter』No.50 2010.4月号

■『報告書 大学アーカイブの理想』と大学アーカイブズについて」中野優子と共著、『大阪大学文書館設置準備室だより』第7号 2-4頁→PDF:<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/archives/letter.html>

●『仕事に役立つ情報活用入門～ファイリングデザイナー検定3級テキスト～』2010年12月刊、B5判108頁、税込1000円、責任編集：社団法人日本経営協会 主任講師：石川正勝、小川千代子、壺阪龍哉、山崎久道



◇◆◇アーキビストの消息（順不同、敬称略）◇◆◇【凡例：■機関●個人】

■有限会社紙資料修復工房 平成22年8月移転 181-0002 東京都三鷹市牟礼4-22-16 Tel.0422-26-5006 fax:0422-26-5007

info@padocs.co.jp <http://www.padocs.co.jp/>

■記録管理学会ホームページ 2010年11月、URLが新しくなった。<http://www.rmsj.jp> これまで国立情報学研究所のHP構築・提供支援サ

ービスに基づきHPを構築し運営してきたが、国立情報学研究所の支援サービスが平成23年度末に終了となるための措置。

■東京大学大学院史料室 室長 吉見俊哉氏 (11月5日付、大学院情報学環教授)

★情報をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。



<執筆>→前頁「千代子のあしあと」に詳述

・『DJIレポート』No. 84 20110101 国際資料研究所
PDF版 <http://www.djichiyoko.com>
・『DJIメル友速報』: [djireport:0186] DJI レポート
82+83 PDFでアップしました。2010.10.29付
・『報告書 大学アーカイブの理想』と大学アー
カイブズについて」中野優子と共著、『大阪大学
文書館設置準備室だより』第7号 2010.9.30 2-4
頁 <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/archives/letter.html>
PDF出版。

<講演>

10月15日 札幌市文化資料室企画講演会基調講演
「札幌市公文書館に期待すること ～利用者のための
公文書館像～」札幌市文化資料室

<出講>

9月22,29日、10月6,13,20,27日 11月10,17日 12月
1,8,15,19,22日 鶴見大学「記録管理論」
10月7,14,21,28日 11月4,18,25日 12月2,9,16,19日
東京大学大学院「アーカイブの世界」
10月7,30日、11月4,18,25日、12月2,9,16,22,23,24,
25,26,27日 修論指導、東大本郷キャンパス他
10月19,26日、11月2,9,16,30日、12月5,7,14,21日、
東京学芸大学「文書館学」

<見学>

10月15日 札幌市文化資料室

11月18日 東京大学経済学部資料室、東京大学大学
院「アーカイブの世界」

12月5日 松本市文書館、東京学芸大学「文書館学」

12月17日 板橋区公文書館、全史料協関東部会

12月19日 板橋区公文書館、東京大学大学院「アー
カイブの世界」、鶴見大学「記録管理論」合同授業

<参加>

10月6日、12月8日 心の虫干しクラブ、本郷

10月9,30日、12月11日 archives revolution 研究会、
本郷

10月18日 紀伊國屋東京歯科大学アーカイブプロジェ
クト、稲毛

11月2日 文化アーカイブズ活性化シンポジウム、東京
芸術センター天空劇場、北千住、東京(本誌3号参照)

11月5日 第21回資料保存セミナー、国立国会図書館

11月5日 記録管理学会理事会、八雲クラブ、東京

11月18日 ねこ会議、学習院女子大学

11月24日 全史料協全国大会、京都テルサホール

11月26日 第12回図書館総合展フォーラム「MLAのデ
ジタルアーカイブ連携—世界、そして日本」、パシフィック横浜

11月27日 千種台39会、赤坂、東京

12月16日 「アーカイブを学ぶ」忘年会、本郷

12月17日 全史料協関東部会例会、板橋区公文書館

<鑑賞>

10月22日 雅楽鑑賞会 皇居東御苑内

巻末随想**●ハッカー??**

前号をやつとのもので HP にアップした翌日、出先で
若い人たちにこのことを自慢した。若い人たちは早速
HP にアクセスして、その時の最新号の PDF を開いてく
れた。「あれえ～。数字がない」と一人が声をあげた。「エ
ええ～??」と画面をのぞき込んだら、PDF ファイルの3頁
目あたりから後ろのアラビア数字のすべてが消えている。
アルファベットの文字もない。どういうことなんだろう。。
キツネにつままれた思いだ。

ともかく、と気を取り直して、もう一度数字やアルファ
ベットが入っているPDFを作りなおして、再びHPにアッ
プしなおした。それで、形式的には一件落着。だけど、
もしかして、何か別のチカラが働いた結果なのかしら。。
これって、ハッカー???やがて薄気味悪くなった

その日夜遅く、再び間違いのないファイルをアップロ
ードした。以来、PDF ファイルは勝手に書き換えられるこ
ともなく、無事に毎日「仕事」に励んでいるようだ。ファイ
ルよ、ありがとう。

●大丈夫?大学アーカイブ

公文書管理法の施行令(政令)の策定が進んでいる。こ
の中で、独立行政法人、とりわけ国立大学法人の非現
用公文書の扱いが、関係者を中心に懸念が表明されて
いるということ、全史料協大会直後に知った。読み方
にもよるのだろうが、結果として非現用文書の機械的廃
棄を促進するような公文書管理法になることは、立法の
趣旨、国民共有の情報資源の保全に照らしてどうなの
か。意地悪な見方をするなら、公文書を扱う公務員は、
実はできるだけ捨てやすい法令を志向しているのかも、
やはり、。公文書管理の法律ができるということは一定
の進歩だと評価してきたのだが、法が律する実務内容
は現状追認。ガイドラインには、独立行政法人や大学の
非現用公文書なんか保存しなくてもいいだろう、という
中央官庁側の考えが透けて見えるようで、哀しい。

●84号刊行!!

アーカイブ七年=2011年最初のDJIレポートです。
次は85号、3月発行予定です。(ち)